なかさと
発行所 中里村公民館
印刷所 十日町新聞社

地域青年の問題意識

——青年研修会から

去る八月二十五日と二十六日の二日間高道山小学校角間分校に於て教育委員会主催により村内青年研修会が行われた。部落青年団及びグループのリーダーなど約六十余名が集り講師に県教育庁社会教育課青少年係長山田沖哉氏、県社会体育振興員保坂国夫氏、助言者には公民館主事狩野利雄氏村田博氏、倉俣小学校教諭鶴巻幸子氏などを招いて一泊二日の日程により青年たちが当面しているいろいろの問題について実情発表や話し合い、研究討議が熱心にすゝめられた。まず第一日目は部落青年団活動について田沢、堀之内、重地、東田尻部落青年団からそれぞれ発表があつたが、いずれも伸び悩んでいる状態であつた。それは必らずしも青年団活動の低調さを意味するものではないが青年達が青年団活動の本質をつかみ、かつ問題意識を持っているならば、そのカベを打破ることが出来るものであることを感じた。つづいて山田先生の講義があり、おわつて「青年団活動のあり方」を中心とした主題で分科会がもたれ話し合い、研究討議が行われ「青年団活動と地域社会とのつながり」「青年団と他の社会教育関係団体との協調」「青年団と社会教育施設との関係」「青年団活動と出稼ぎの問題」など活発に意見が交されたが結局、青年団活動の実態をもつと良くつかみ、そこから「かくありたい」が「どうすればよいか」を話し合わなければならない。その場合青年団だけの問題としてだけでなく地域全体の問題として、みんなが意識されたものでないと意味がないのではないか。

写真は（才一日目）才三分科会である

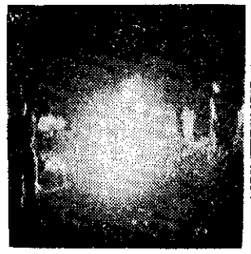
共同精神のかん養

第二日目はグループ活動について、実情発表や佐藤山田両先生の講義を中心として話し合い、研究討議が行われた。

「グループ活動と青年学級の関係」「グループ活動と村青年団」「部落青年団活動について」「グループ活動と社会教育施設の立場」「グループ活動の当面している問題」などについて、熱心に話し合いが行われたが、結論としてグループ活動は、一つの共同学習、ともみがき学習であつて、青年達が生活経験そのものを通じて共通する身近な問題を、みんなで考え、研究し実践することにより、自主性を養い、共同性を培うことが目的であるということだ。したがつて、現在のグループのつくられた動機をふりかえつてみると、果して青年達が自分達の生活の中で感ずる困難の問題をもつてこれを解決したいという、問題解決学習の場として、グループ活動を考えていたかどうかということである。

二日間の日程を通じて青年達は、お互いに寝食をともに生活を送つたのであるが、ことに清津の清流、静かな山峡を背景としたなかで、厳粛のうちに行われたキャンプファイヤーは、北たび集つた青年達に、新しい村づくりへの若々しい情熱と意欲を植えつけたものと思う。

今後の中里村発展に大いに期待されるのではないかと思う。



写真はキャンプファイヤー

開拓事業完成

農林省事業所引きあげ

二十三年国営開拓地として認定され、以来十年間、道路、貯水池、導水路等、一億数千万の大きな事業を無事完了し、事業所を閉鎖引上げることも正式決定をみたので、完成祝を来る九月二十八日午後二時より田沢小中学校において、金沢農地事務局長の主催で、大臣、政府高官、代議士、関係者約二百名の出席のもとに、盛大に行われることになつた。

事業所閉鎖引上げにあたつて、開所以来所長として御奮斗をされて来た水野氏は、「随分ながいことお世話になりましたが、二十三年来みなさんの御協力によつて、無事こゝに事業の竣工を見、この地に立つて力強く鍬を振つている人たちの姿を見るときに、ほんとうにうれしく感無量なものがあります。ただ残念に思うことは、二十六年にたてた清津川の綜合開発が、いろいろな都合で着手出来なかつたことで、このことについては今後村長さん、村民のみなさんで一致して、是非実現するよう望んで止みません。私で出来ることは今後共お力添え致したいと思つています。大変お世話になりましたが中里村の御発展を願つています」。

とこのように語つた。

村づくり家づくり

松丸志摩三氏の講演より

戦後日本農村は農地改革によりその社会制度は急激に変化した。ところが農民自身は、この大改革についてゆけなかつた。即ちこの改革に伴わねばならないものの考え方を少しも変えなかつたのである。

その一つの例として部落の区長選挙がそれである。

我々は二十才になれば国政に参与出来、法のもとに選挙権が与えられる。

部落内の区長選挙は法律によるものではないが、一家の長一人の投票により選出されるのである。即ち親父絶体主義の悪習が今なお歴然と残つているのだ。

新しい村づくりの出発点は、このような封建的悪習を家庭から追い出し、一軒一軒が幸福にならねばならない。換言すれば家づくりとなるだろう。

◇家づくり◇

(1)経営

家庭が豊かになるには、まず経済的に豊かにならねばならないことは誰でも知つている。だから多くの利益を得なければならないことは勿論であるが、しかし金の遣い方に大きな関心を持つてみなければならない。

月給とりと農家の金の遣い方を比較してみると次のような順序で遣われる。

俸給者＝衣、食、住

農　家＝住、衣、食

これでわかるように農家では住即ち家に一番先き多くの金を遣う。又家の中でも屋根、客間等他人からよくみられる箇所に金をかける。従つて一種の見栄から他人にみせる為につかうので、自分自身の為につかうのではない。もつと合理的な遣い方を考えてゆかねば生活は向上しない。

(2)経営の単純化

経営を合理的にするには経営をもつと単純化しなければならない。この中里に於ては約五、六十種類の農作物があるが、これではあまりにも数が多過ぎて研究も何も出来ない。従つて昔からの作り方をそのまま踏襲する結果となる。

では何を作ればよいか、というとその解決は現代社会の食生活を研究してみなければならない。すると最近最も消費の激増をみるのは果物と肉であることがわかる。故に米は勿論であるが、その他果物、畜産に重点をおけばよいということが出てくる。

(3)生活

農村の親父連は妻や子供を農具か役畜の如く考えているらしい。だから家族みんなで働いて得た利益は自分一人の力で出来たかの如く思つているのだ。従つて家庭内の労役はタダだという考えが起つてくる。というのは隣人に好意を示すために贈物をする。貰う側では一応これを辞退すると「これは家で出来たもので金を出したのではない、タダなんです」

と差し出す。とんでもない、妻や子供、そして自分自身がやせるような労役をした結果出来た作物であることを忘れているのだ。

また若い農家の嫁さん達に「あなたは誰と話をすることが最も楽しいか」と聞くと九割九分までが里に帰つて母と話をすることが一番楽しいと答える。なんと情ない且那様ばかりであろうか。男子青年諸君よ女性が農家へ嫁に来たがらないのは無理もない。もつと女性の立場を嫁の立場を考えてやらねば、一体何処に向つて男女平等を叫んでいるのだ。

結論として頭の考え方の切替をすることと、家の中に不平をもつ者が一人もいない家庭、また不平があつたらすぐ打ち明け相談出来るような家庭を築き上げねば新しい村づくりは出来ないということである。

俳句

日俳中里支部

芍薬の花片たたみて暮なずむ　一声

汗浮べ十円欲がる孫の顔　一声

癒い切れぬ創血吹かせ台風　春雷

鮎二三尾手間二三日妻笑まず　紫江

野苺や鉄路はあつく暮れなずむ　紫江

紫陽花の色変るまでしとど　峰月

暴戻の後白帳と台風禍　柱仙

農薬の進歩主無きホタル草　陽月

陽に揺れて鈍痛覚ゆ葉鶏頭　峰月

偶感

先月の村内青年研修会に一人の受講者もなかつたところが二ケ所あつた。

理由として

(1)みんなで旅行にいくことになつたから、

(2)部落が祭りであるからということである。

一体この研修会は誰が計画したのであろう。自分達であつた筈である。その自分達が集り、さんざん検討して要項までつくり当局に要求、乏しい予算の中ながら当局もその熱意にこたえて、開催されたものであつたときく。それにもかゝわらず、自分達はそんなことは知つたことではないとばかり、部落で同じ日に、又

◆人事◆

教育委員会では、かねてから村社会教育事務局の充実について、村当局と接衝してきたが、ようやくこれが実現、次の通り教育委員会より発令された。

社会教育係書記　樋口和一

公民館係書記　樋口信治

別な計画をたてゝいるのである。

屋根へあげて梯子をとるといつた話に似ている。これでは今後うかつに話にのれないし、こういう人達の代表者はやりきれたものでない。

又研修内容が、うわべだけという批判もあつたが、その位の自分達であることを、あの分科会からよく批判の前に知るべきであろう。

あなたはつまらなかつたかも知れないが、ためになつたという人が大部分であつた。

(S)

農繁期の防犯

収穫期に入ると農事に追われ、とかく戸締りや火の用心がおろそかになります。十分に気をつけて下さい。

村民運動会

―みんなで参加しよう―

中里村民運動会は、公民館主催、後援青年会婦人会により、九月二十一日朝九時より（雨天の場合は二十三日）田沢校グランドに於て行われることとなった。村民全部が一会場に会することは年に一回か二回である。どうかこの機会をのがさず、一人でも多く参加しスポーツ、レクリエーションを通じてお互いの親睦をはかり、健康を増進し、全村あげての楽しい一日としたいものである。やり方はだいたい去年と同様であるが、今年は婦人会の民踊と小中学生の遊戯、それにマラソンを加え、華々しく行うことになった。マラソンコースは貝野支所折返しで距離は八千である。

◇チーム編成

▼第一チーム　貝野地区全部落▼第二チーム　倉俣地区（芋川新田、小出、西田尻、西方を除く）部落▼第三チーム　芋沢、田沢、如来寺、桂、藤原、上山、千溝小原▼第四チーム　田中荒屋、山崎桔梗原、高道山以南、芋川新田（小出、西方、西田尻を含む）

◇競技種目

◎トラックの部
男　百米、二百米、千五百米、八百継走、マラソン
女　百米、二百米、四百米
◎フィールドの部
男　走巾跳、走高跳、三段跳、砲丸投
女　走巾跳、走高跳、砲丸投
◎その他の部
百足競争、障害物競争、夜の旅、猫に紙袋、借物競争、女子仕度競争、男子百四十才リレー、女子百才リレー、大玉送り、紅白の玉入れ、綱引き
◎番外
幼児レース、たばこの火つけ競争、小中学生の遊戯、婦人会民踊―以上―

青年会の方針（其の一）

青年会長　村山　武

或る運動の成否は、その運動に参加している個人の意欲と指導層の理解と実行とあいまつかどうかにかかっているということは、かつて私が本紙で強調したところである。

蓋し現実の青年の姿の誤った認識の上に立った指導方針は、唯単なる空文であつて、これこそ無価値なものと言われよう。

そこで私は本文を書くにあたり、非常な勇気を持つて、ありのままの姿を認めることによつて、我々の活動の方向にふれなければならない。

まず第一に青年の大部分は、自由に青春を享楽することでことたれりとしていることを、指摘せざるを得ない。

ある者は、青年の実態についてこれを年代層で区分しようと試みる。またある者は青年団運動に、積極的に参加しようとする一部の者の状態をさして、その実態を呼ぶ。

いずれにせよ五百の青年の一人〳〵について言うならば、いろいろの意見もあろうが、なおかつ私がここで敢て前述の表現をしたのは、多数青年について言える共通的実態を意味するものである。

それではこうした実態の中にあつて、公民館並びに我々は、どういう方針の下にこれに対して来たか、そして又今後対すべきであるか。

我々が公民館側とこのことについて話し合う時、必ず「教養」とか「学習」とか言うことを聴かされる。

そして社会教育の面からは、青年学級を通じて極めて、この学習についての熱意をもつてのぞんでいることは確かである。

これに反して我々自身の今日までのグループ活動に対する方針はどうであつたか。

正直なところ学習云々について一言たりとも表面に打ち出したことはなかつた。しかしあのグループ活動に組織転換するにあたり私の知る限りに於て関谷前会長は、学習的目的をもつてこれに踏み出したのであることは、疑う余地がなかつた。しかしその意図にもかかわらずグループ活動を展開しはじめるや否や、たちまちにしてその期待は裏切られた。その上残念なことは、この重大な致命的悲劇的結果に対して、何らの対策もしなかつたということである。このことは、教育的立場に立つて、青年を観察する側にとつては、当然批判しなければならなかつたところであろう。

さりとて、所謂単に教養を高め、学習を旨とする方針の下に、今日の青年がついて行くことが可能であつたかとなれば、これまた残念ながら悲観的結論しか出されない。問題はここにあるのではないか。我々が当面している困難な問題とはこのことである。

私、及び全役員はその方針に関し次の如く説明するものである。

私が青年会活動の終極的目的を問われれば「青年個人個人の人格が少しでも高められることである」と答える。

その人格向上の為には、経済生活の安定も必要であろう。封建的生活環境の改善も必要であろう。そしてその為にはなお、相互理解と協力による共栄精神の涵養が必要であろう。我々はそのためにグループをつくり、真剣に研修し学習しようと主張しているのである。従つて私が常に主張しつづけて来ていることは、我々の如何なる活動もこの基本目的を見失うならば、何等の意味をなすものでないということである。

従つて我々の活動は他の団体、公民館、農協、農民組合、婦人会等と何等無関係ではないということである。むしろ最も密接に関係すべきであると言うことが出来る。公民館が「教養」と言い「学習」と言うところのものは、正しく以上のことを実践する基礎的段階のことである。

我々は以上の見解に立つて青年会の活動を推進するものである。関係者の理解と協力を切望してやまない

赤痢

猛威をふるう

一時下火になつた赤痢がこんどは東田尻及び清田山に集団発生し、ついに二名の死亡者を出した。

今のところ伝染経路は不明であるが、この部落の飲料水はほとんど流水で、水質の悪いことは、昔から歌の文句にさえあるところなので、特に次のことを係では注意している。

◇病人宅を訪問しないこと
◇手洗いの励行をする
◇生水の飲用をしないこと

こゝにも「イソウロウ」あり

中部地区農業改良普及所　樋口虎治郎

大変失礼な言い方だが「イソウロウ」が最近非常に多くなつたと云う。内容的には就職難からしてのもの、自ら好んでこんな存在になつているもの、その他いろいろあろうが、いずれにせよあまり聞えのよいものでないが……。

ところが人間生活向上に伴い改良された動物、即ち人間が飼育している家畜に於ても「イソウロウ」は多い。割合からして人間以上かもしれない。しかしこれは人間の「イソウロウ」より解決は簡単である。

全村一致、家畜の「イソウロウ追放運動」をやつてはどうかと思う。ちよつと大ゲサかもしれない。

家畜の中で「イソウロウ」が極めて多く飼われ、有畜営農をオビヤカしているものでにわとりがある。

その「イソウロウ」をソシラヌ顔で飼つている人もあるのだから、人間なんてイイカゲンなもの。もつとも動物愛護の精神ヨロシク発揮しているのだと云うことになれば別だが……。

何れにせよ、経営をマイナスにしていることは間違いなかろう。種鶏改良の進歩と、飼育技術の向上に伴い、ニワトリ一羽当りの産卵数が著しく増加したが、反面生産費の大部分を占める飼料費は依然高くなつているためタマゴの生産費がかさみ、養鶏経営上大きな障害となつている。これを有利にする途は、まずこの飼料問題の解決と、養鶏家個々の研究と工夫によつて自主的に解決のできる「イソウロウ」の追放（卵をあまり生まないトリ）である。この追放によつて得られる利益は、飼料費を少なくするばかりでなく、産卵率の向上が図られる。エサの問題はこゝではぬきにして、十月頃よりの卵価高の時期（羽の生えかわり）にもなつてきており、ニワトリの「イソウロウ」追放には最もよい時期であるので、この「イソウロウ」の見分け方をこゝで御紹介しよう。見分け方にも種々あげれば多いが誰でも短期間に簡単にやれるもののみこゝであげてみよう。

見分け方とその處理

(1)一般にエサのヨリ好みをしてあまり食べないもの。
(2)夕方止り木に早く上り朝、遅くまでとまつているようなもの。このようなものは夕方止り木に上つてから、ノドのところにさわつてみるとエサをあまり食べていない。
(3)元気のない病気のものは勿論だめ。
(4)トサカがやゝ暗い色でちじんでいるもの。
(5)口ばしは長く、先がとがつているもの、多産鶏は短かく、先が幾分曲つている。
(6)羽は体に密着してよくしまり、光沢がなく、すり切れて汚れているものは多産鶏だが、しまりがなく、羽のスマートなものは、あまり生まないトリ。
(7)腹の方が皮膚がうすく弾力性あるものは多産。反対に硬いものは皮下脂肪が厚いもので、休産中か、産卵の少ないもの。
(8)一般に胸が広く、横からみても上からみても尻の方にゆくに従いやや広くなるもの、多産鶏だが、後方が前より、せまくなつているものは産卵の少ないもの。
(9)尻の両側に骨がありそこに、下の方からその骨の間に指をあてゝみて二、三本入るのはよく生むトリ。一本位しか入らないものは、休産中かあまり生まないトリだ。又その骨の下、腹の方からきている骨が一つあるが、その間にこんどは横から手を入れて四、五本入るのは多産鶏だがせまいものはあまり生んでいないトリ。
(10)尻の穴がやゝ円形でうすい桃白色になりシメリ気のあるのは多産、穴が丸く黄色味でかわいているものはあまり生まない。
(11)口バシ、耳、目のまわり足の白いものは多産鶏、黄色のものは生まないトリ。
(12)羽の生え換りが七、八月頃より始めたり、早くから初めておそくまで続けるものはだめだ。十月頃から始まり十二月頃までに終つてしまう短期間のものはよく産卵する。又羽がわりがあまり目立たないように除々に行われ、その間産卵を続けているトリは、極めて多産鶏だ。

以上が誰でもわかる極めて簡単な「イソウロウ」の見わけかた。見分けさえ出来れば追放の方法、ここで強いて書かなくてもこれこそ簡単ナベの中が一番良い方法、追放し切れなければ、誰でも連絡次第応援にかけつけるであろうし、又出荷の方法もある。

長野県では九月一ケ月、この「イソウロウ」の追放月間を設け盛んに呼びかけている。

現在の飼育の実状からして二割～三割位の「イソウロウ」はいるものと思われる。この飼育料はばく大なものである。

さあ!!出来た!!

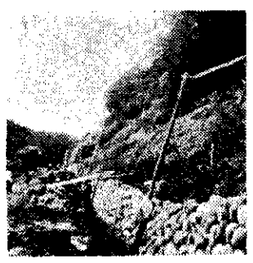
田沢小に綜合遊戯施設

子供の体位向上を図り、健全な体育的遊戯施設によつて、子供を交通事故から守り、かつ不良化防止等に役立てたいと、田沢小学校PTAでは、数年来綜合体育遊戯施設を村に強く要望していたが、予算難から実行しなかつた。そこでPTAでは乏しい予算の中から、季節を前にして、又換羽時期（羽の生えかわり）にもなつてきており、ニワトリの「イソウロウ」追放には最もよい時期であるので、この「イソウロウ」の見分け方をこゝで御紹介しよう。見分け方にも種々あげれば多いが誰でも短期間に簡単にやれるもののみこゝであげてみよう。

六万五千円を支出。この熱意には応えられ、此の外、村でも約貳万円を計上、夏休み中に先生方の労力奉仕等により、郡内でも初めてという綜合施設を作つた。

ジャングルジム、オーンヤンウェーブ、山型雲梯、鉄棒、ブランコ、すべり台、シーソ、などで、この外丸太腰掛、砂場、日時計があり、連日夕方まで、どの施設も満員のにぎわいを呈している。

（写真完成した施設）



待望久しかつた十二課は中員六米今年度分として延長四百五十米が予算六百万円で雀沢地区より着工した。